



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2022年6月12日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:5名

指導員:4名

テーマ 初夏の昆虫

6月ともなると、成虫越冬したキタキチョウなどが春先に産んだ卵から幼虫、蛹を経て羽化した成虫が出現し始め、虫の世界が賑やかになります。そこで、今回のテーマは「虫」です。

最初に、愛知県が県民参加で進めている「生物多様性モニタリング」の紹介をしました。スマホやパソコンから観察したナミアゲハ、シオカラトンボ、ニホンタンポポといった動植物の画像と撮影日時・場所などを登録するものです。観察会参加者にもデータ登録に協力してもらえたらいいと思います。

さて、この時期に草原でよく目につくのはモンシロチョウとモンキチョウです。モンキチョウの♀は体色が白っぽく、遠目にはモンシロチョウと見間違いやすいのですが、捕まえて翅の表の模様を確認すると違いがよく分かります。シジミチョウはベニシジミとツバメシジミが目立ちました。ムラサキシジミは成虫と食草のアラカシの若芽に産み付けられた卵を見ることができました。

シモツケの白とピンクの花には花粉を求めて甲虫のコアオハナムグリが来ていました。緑色の鮮やかな個体もいましたが、同種か別種のアオハナムグリ、あるいはハナムグリかは分かりません。先に行ったところでは参加者がクロハナムグリを捕まえて見せてくれました。ハナムグリの間はこの辺りでも何種か見られるのですね。

いつも通る堤防下の散策路を歩いている時、黄色と黒の縞模様の大型のトンボが飛んで行きました。オニヤンマかと思いきや、止まったところを見たらコオニヤンマでした。種名の一部に「オニヤンマ」と入っていますが、飛翔があまり得意でないサナエトンボの仲間です。参加者の帽子や手のひらに止まって楽しませてくれました。

バラ科のカワラサイコの黄色の花が咲き始めました。砂地の川原で多く見られ、その根が薬用の柴胡(セリ科のミシマサイコ)に似ていることから名づけられたということです。確かに茎に比べ根は太い円筒状でした。

終わりがけにオオタカが営業している近くを通りました。木の葉が繁って葉は見つけにくくなって、オオタカのストレス緩和には役立っていると思われます。撮影に来ていた野鳥ファンの人に聞いたところ、ヒナが2羽育っているとのことでした。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

昆虫:キタキチョウ、ナミアゲハ、キタテハ、サトキマダラヒカゲ、ヒメアカタテハ、ヒロオビトンボエダシヤク、ホシホウジャク、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ナミテントウ、ヒメカメノコテントウ、セイヨウミツバチ、タイワンタケクマバチ、アオバハゴロモ(幼)

鳥:ツバメ、キジバト、ムクドリ、カワラヒワ、ヒヨドリ、シジュウカラ、コゲラ、スズメ、トビ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、カワウ、オオヨシキリ(声)、ウグイス(声)

花:オオキンケイギク、ヒメブタナ、ブタナ、コウリナ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、ニガナ、チチコグサ、ウラジロチチコグサ、ノアザミ、カワラマツバ、ネムノキ、シロツメクサ、イヌコモチナデシコ、マンテマ、ネジバナ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、セッカニワゼキショウ、コマツヨイグサ、ツボミオオバコ、ヘラオオバコ、オオバコ、オッタチカタバミ、ヒナギキョウ、キキョウソウ、ハンゲショウ、ドクダミ、タイサンボク、キンシバイ



(シモツケの花にいた甲虫を観察中)



コアオハナムグリ



手に止まったコオニヤンマ



カワラサイコの花



カワラサイコの根